

第 2 回松原公園整備基本構想策定会議議事録

- 開催日時
令和 6 年 4 月 16 日（火）10 時 00 分～12 時 15 分
- 開催場所
徴古館 2 階多目的ホール（佐賀市松原二丁目 5 番 22 号）
- 出席した者の氏名

【委員】

- 座長 有馬 隆文 【佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授】
- 大野 雅生 【NPO 法人まちづくり機構ユマニテさが 事務局長】
- 小城原 直 【勸興校区自治会 会長】
- 音成 亜美 【旅館あけぼの 代表取締役】
- 川崎 康広 【川崎空間研究所、さがクリークネット 代表】
- 谷 政司 【株式会社 J T B 佐賀支店 支店長】
- 富吉 賢太郎【学校法人佐賀清和学園 理事長】
- 椿原 淳子 【佐賀県 総務部 資産活用課 課長】
- 富田 紘次 【公益財団法人鍋島報効会 事務局長】
- 眞崎 実央 【佐嘉神社 禰宜】

【事務局】

- 佐賀市 副市長 池田 一善
- 地域振興部 歴史・文化課 課長 小林 茂子
- 副課長 武藤 英海
- 副課長兼政策係長 道田 秀典
- 主査 江藤 健二

株式会社オオバ

●事務局

この会議は後ほど、議事録を公開することとしておりますので発言の際はマイクを使ってお願いしたいと思います。最初に資料の確認をしたいと思います。机の上に資料をのせておりますのでご確認お願いいたします。会議次第、委員等名簿、資料 1. 説明資料 A4 横置き、資料 2. 松原公園サウンディング型市場調査実施結果報告 A4 縦、資料 3. 松原公園基本構想策定会議議事録、資料 4. アンケート調査表、資料 5. ワークショップのチラシとなっております。それと設置要綱をお手元に配布しております。よろしいでしょうか。

それでは 4 月の市役所の人事異動に伴いまして、前任の野田に代わりまして歴史・文化副課長の道田でございます。その下になりますけれども、基本構想策定を支援していただくということで、株式会社オオバに委託をいたしました。本日の会議から出席しておりますのでよ

ろしくお願いいたします。

ここで会の成立ですけれど、本日皆様ご出席をいただいておりますので、会議が成立をしております。それと会議の公開についてでございますが、これにつきましても先ほど申し上げましたように、議事録等、それから資料等の公開というのが佐賀市は原則なっておりますので、本日も公開にて進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは本日の協議会は公開ということで、資料それからの委員の発言等につきましては、規定に基づきまして後日市のホームページで公開をいたします。それではこれより議事に移ります。

これからの会議進行は有馬座長にお願いしたいと思います。有馬座長、お願いいたします。

●有馬座長

皆さんどうもおはようございます。

第1回は今年の11月でしたっけ。随分日にちが空きましたけれども、この期間も色んな人と話しまして、皆様やっぱり松原公園に関心が高くて、「ぜひ、いいものを作ってください。」と皆さんから言われまして、本当に改めて覚悟した次第でございます。ぜひ良い公園の企画を皆さんとしっかり議論し、まとめていきたいと思っております。今日も御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

お手元のほうに次第がありますが、今日は報告、議事、もろもろありましてかなりタイトな状況でございますが、議事が円滑に進みますように御協力をお願いします。なるべく発言は要領良く、手短に。しっかりご発言をお願いしたいと思います。

それでは早速進めていきたいと思っておりますが、まず次第の報告事項2点でございます。続けて御報告をいただきたいというふうに思っています。

それでは、報告事項(1)第1回の意見整理ということで事務局の説明をお願いいたします。

●事務局

皆さんおはようございます。歴史・文化課 江藤でございます。

それでは次第に従いまして御報告させていただきます。

まず、資料3ページを御覧ください。(1)第1回基本構想策定会議での意見整理ということで、前回のちょっとおさらいになります。

1回目の会議では、松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会で策定した松原公園周辺の将来像から、第2期整備のコンセプトとして、憩いの緑や松原川を活かした整備、動線や徴古館、神社との自由な往来を意識した整備の二つを御説明させていただきました。御意見をいただいたところでございます。次の4ページにその時に出た主な意見を整理しております。

まず意見を四つの項目に分類しております。

一つ目がデザインについてです。まちなかとお城側、南側の関係のデザインが必要であることであったり、水辺との連続性をつくったり、どこからでもアクセスできるイメージであ

るべきという御意見がございました。

二つ目、回遊という視点から、松原公園で東西の回遊の軸を作って、駅からの南北軸と合わせた回遊を生み出すことであったり、共用できる駐車場、車に対する市民意識の変化などについての意見がございました。

三つ目ですけれども、ターゲットというところで、こちらにつきましては子どもを対象にすることで、その親であったり、おじいちゃんおばあちゃんだったり、多世代に興味を示してもらえるということ。そして、ターゲットの対象となる人へ、地域の現状であったり歴史に対する思いなどを調査したほうがいいという御意見。松原一帯は、学生にとって目的地になっていないという意見が出たところです。

四つ目、市民参加という視点ですけれども、こちらについてはワークショップを開催するなどして、市民が参画する機会を設けることや、実際に公園を要する人たちとの議論を深めながら進めるべきという意見がございました。ワークショップの実施につきましてはこの後、後ほど詳しく説明をさせていただきたいと思います。

順番が前後するのですが、**資料3**に前回の策定会議の議事録を載せております。今回抽出した意見というのは黄色のマーカーで印をつけておりますので、また後ほど御確認をいただければというところになります。こちらの説明については以上になります。

●有馬座長

どうもありがとうございました。

(1) 第1回の意見整理ということで、第1回で出た意見を資料としてまとめていただいているというところがございます。質疑については、報告(2)の後でまとめて受けたいと思います。よろしいでしょうか。では続いて(2)の御説明をお願いいたします。サウンディング型市場調査の結果報告ということで事務局お願いいたします。

●事務局

資料が変わりまして、**資料2**を御覧ください。

こちらサウンディング型市場調査につきましては、1回目の会議でこういうことをしますという、少しざらっとした説明をさせていただきましたけれども、昨年10月からサウンディング型実施調査をしておりました。

まず1番上の調査目的ですけれども、前回の会議でもお話ししておりますが、そちらに載せているイメージ図の赤丸で囲っている2か所につきましては、民間活力の導入を考えておりまして、まずは民間事業者などの意向や事業アイデアなどを把握するために、対話型の市場調査としてサウンディング型市場調査というものを行いました。

二つ目の経過というところ下のほうですけれども、この調査は一つ目の項目ですけれども、実施要領の配布を去年10月から始めまして、それからこの松原公園周辺で事前説明会を11月2日に実施いたしました。そして事業者からの提案書を11月30日まで受け付けておりまして、今年の1月17日には提案書を御提出いただいた3者と個別に意見交換という形で対応しながら、ヒアリング等を行ったところがございます。今年の3月にこのお配り

している資料と同じものを、結果の公表として市のホームページに掲載をいたしました。

続いて2ページをお願いいたします。(1)現地説明会ですけれども、こちらは先ほども触れましたけれども、8者の事業者の方に御参加をいただきました。(2)個別対話ですけれども、こちらは1月17日ですが、こちらは3者の方と個別対話を行ったところです。3者の内訳としましては、建設業者が1者、飲食・物販の業者が1者、NPO法人が1者というふうな内訳になっているところです。3者とも個別対話は、佐賀市と土地の所有者である鍋島報効会、佐嘉神社、佐賀県の各担当者が参加しまして、各社と1時間程度意見交換を行いました。個別対話の概要を3者分まとめて表にしております。個別対話は6項目につきましてこちらからお尋ねをさせていただいて、それにお答えいただくという形で進めております。

まず1項目目、松原公園の「ポテンシャル」。事業参入に当たって、魅力があるのかどうかというところを最初にお尋ねをしております。これに対して3者とも前向きな御意見をいただいております。主なものとしましては、まちなかでありながら歴史が感じられ、交通便利性も高く、初詣や七五三、そういった集客力が高いというところがございます。

次の項目で「どういった営業形態が考えられるか」というところをお尋ねしたところ、1つ目、参道のようなつくりの中に、飲食や物販が並んでいる新しい横丁のような姿があって、食べ歩きができるようなお店が並べば魅力的な通りになるのではないかとというような御意見をいただきました。

3項目目、「事業化に向けての課題や条件は」どのようなことがありますかというところにつきましては、1つ目、事業化に当たっては、このエリアの価値を保つというところが、今後もそれを続けてできるのかというところ、このことが営業の継続性が見込めるかの判断になるというところの御意見がございました。3つ目、参入に当たっては高い賃料であったり、最低契約年数などの条件があるとなかなか参入しづらいという意見。3つ目、話題性があって、継続的な集客が見込めるような、核店舗が最初に決まると、参入も考えやすくなるというようなところも、御意見としてございました。

4つ目の「課題の解決方法」についてですけれども、どうやったら参入しやすくなるかというところですが、1つ目、このエリアの価値であったり、営業の継続性の課題については、このエリアをわかりやすく端的に示すテーマやコンセプトをつくるとか、身近で訪れたい理由づけや、周辺との動線をつくれれば参入の可能性というのは高まるのではないかとというような御意見がございました。

3ページのほうをお願いいたします。

「市が実施する公園整備に対して提案」はありますかというお尋ねですけれども、1つ目、店舗の前にイベントができるスペース、できれば屋根付きがあったらいいとか、イベントがあると滞在時間が長くなるので店舗の収益性も高まるのではないかと御意見。2つ目ですけれども、国道から公園内部が直接見え過ぎないほうが良いとの考えで、全体が見えなくて何かやっているなというような様子がちょっと期待を持たせることが出来て、集客に

つながるのではないかということも言われました。

最後の項目ですけれども「その他」というところで、ターゲットとしては多世代への来訪が見込める家族連れがいいのではないかという御意見もございました。2つ目ですけれども、店舗参入に当たっては、自分たちだけで出展するのではなくて、テナント誘致も出来て、複数の店舗での出店も可能と考えるので、調整が決まれば考えたいという御意見もございました。

このように3事業者から対話型の調査を行ったところですが、今後もこの3者を初め、それ以外の様々な事業者との対話を行っていきながら、民間の意向を把握して、土地の所有者の方々とともに事業化につなげていきたいというふうに考えているところでございます。こちら説明以上です。

●有馬座長

どうもありがとうございました。以上が報告でございますね。そしたらここで皆様からお聞きしたいと思いますが、まずは報告(1)いかがでしょうか。第1回の意見整理はいかがですか。資料は4ページ目にまとめていますね。第1回基本構想策定会での意見整理で、デザイン、回遊性、ターゲット、市民参加ということで、このようなまとめがなされています。ここはよろしいですか。

●音成委員

前回は11月末で、それから半年弱くらい時間が経っていて、アリーナもオープンして、アリーナも最初は駐車場なしでいくとなっていて、でも実際には色々な声もあって駐車場も開放されつつあるという、結構この数か月間の間でいろいろ実証をされてきているかなと思う。回遊性の3点目のポイントで、車に対する市民意識を変えていき、歩く街とすれば地域への愛着が深まるというのは、すごいある意味理想論ではあるけれど、理想論を基に目標としていいかどうかというところは、ある意味もう一度考え直した方が良かったかなと思いました。そこまでこのプロジェクトが本当に目指そうとすると、今皆さんが考えている以上に色々な労力も必要だろうしやっぱり、生活スタイルを変えさせていくってものすごい行動変化なので、そこまでこれ本当に出来ますかっていうところは、ある意味現実的なところを見据えた上で考えていったほうが良いかなってというのは数か月経ってやっぱり改めて思います。

●有馬座長

音成委員どうもありがとうございます。前回出た意見の整理ということで、こういう回遊性の車に対して市民意識を変えていき、これは確かに課題としては課題として挙げられたけれどなかなか現実としては難しいので今回のプロジェクトの中で、どこまでこれを配慮していくかというのはまたしっかり考えていかないといけないという御意見でした。貴重なご意見としていただきたいと思います。ほかに質問や御意見ございませんか。

●川崎委員

私ちょっと2番のほうですけれども、サウンディング。よろしいですか。

●有馬座長

ちょっと待ってください。(1) はもういいですか。前回お休みされた椿原さん、よろしいですか。

●椿原委員

県の立場として理想的な意見を言わせていただきますと、県としては「歩こう SAGA 県」というのをスローガンにして取り組みを行っていますので、理想論というのは確かにあると思いますけれど、それも含めて検討していただければと思います。

●有馬座長

県の立場としては「歩こう SAGA 県」大きい目標で、日本の各地の都市も中心市街地衰退に関しては人が歩かなければ元気にならないというのは明白な事実ですけれど、なかなかすぐこのプロジェクトに実現できるかというのは、それはまた難しい問題でしっかり分けて考えていかなきゃいけない話かなと思います。県の意向としては「歩こう SAGA 県」歩くことを推進したいということを目指して、いろんな各種プロジェクトをやっているという理解は、一方ではしていただきたいなというふうに思いました。どうもありがとうございます。

それでは、皆さん (2) の方の関心が高いような気がしますから (2) の方に移ってよろしいですか。(2) について川崎委員どうぞ。

●川崎委員

川崎です。これは事務局のほうになるんですけど、このサウンディング調査で3者出ていますけれども、御承知のとおり私も市民団体として一つ出したけれども、提案書がそれぞれ出てきていると思います。今、箇条書きでここにまとめていただいていますけれども、私のとこなんかですね、1時間ぐらいプレゼンでしっかり話をしたと思うんですね。伝えたいことのほとんど伝わっていない状態です。ほかのところの意見も見たいですし、これをやるかやらないかっていうのもまた別の議論ですので、まずは市民とか企業さんがどんな意見を持っているのかっていうのはもっと見えないと、議論ができないと思います。準備も相当、私たちのとこも1か月以上学生たちと一緒にいろんな議論をしながら、地域の人も話しながら提案を考えてきたけれども、もっこの場で材料をもっと出してその中で議論していかないと、せっかく出していただいた意見もこの文章の何行かで終わってしまうということじゃ、伝わらないと思う。なのでしっかりと、そのところの資料もしっかりと共有していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

●有馬座長

事務局いかがですか。

●事務局

歴史・文化課の小林です。先ほどちょっと戻りますけれども、音成委員さんの今まさに、市民の方にも、事業者さんにもいろんな御意見をお聞きしながら、それをどういうふうに思われているのかということも、ちゃんと基本構想会議の中でお示ししたうえで、皆さんに議論

をしていただきたいと思います。やっぱり民間事業者さんは、言われたようなことをおっしゃいます。駐車場問題というのはですね。やっぱり理想としては、やっぱり歩くライフスタイルを進めていきたいと佐賀市も当然思っていますし、少しずつやっぱりアリーナで、まちなかで無料の駐車場を提供して、そこから歩いて行ってらっしゃる姿を見ると、やっぱり少しく皆さんの意識変わってきているのかなというふうにも思いますが、やっぱり実際、民間の開発をここですとなると、駐車場の問題が1番ネックだというふうに言われます。ここに駐車場があるかどうか、出店に大きく関わるというふうにおっしゃいますので、そこをしっかりと所有者さんとも協議をしながらちょっとこの会議でも練っていければというふうに思っています。

●事務局

補足をさせてください。このサウンディング型市場調査をさせていただく要綱の中に、各企業さんが持っているノウハウ等については示しません、会社名も出しませんということにしております。先ほど川崎さん、私たちはどこが出したということを公表していませんけど、今、川崎さんが言われましたので、川崎さんのところは詳細な図面等も出されております。ただそれは、ほかのところはどうなのかというところまでは出されていません。やりとりの中で、いろんなことをお聞きさせていただいたというのが事実であります。川崎さんが出されたところを、うちのほうから出すということは要綱上をいたしません。ただ川崎さんのほうから、これを皆さんのほうにお示しされるということになることは、全然妨げることではありませんが、私たちは提示された3者の情報というのはここにまとめさせていただいた内容で公表をさせていただいたということです。

●有馬座長

どうも御説明ありがとうございました。川崎さん、今の御説明に何かございますか。

●川崎委員

そのとおりですけれども、私たち団体としてですけれども、いろんな意見がもっと出してもらわないと、ここだけで今後100年の公園を決めていくっていうのは、余りにも材料が少なすぎる。なのでいろんな意見をちょっと見える化しながら、とにかく材料をたくさん集めれば集めるほど、選択肢が増えますので、そういった会議になればいいなというふうに思います。

●有馬座長

どうもありがとうございます。事務局、サウンディング調査の3者から出された資料というのは、何かもう形式化されたフォーマットになって、我々委員の皆が見ていいものなのか。

●事務局

その資料につきましては、公開しないということをしてしております。やりとりの中で、フォーマットの項目についてお聞きをして、それを聞き取った上でまとめたというのがこれですので、その図面等を詳しく、図面等も出されたところもございますが、あくまでもそれは私たち内部の資料ということで、それぞれの会社がお持ちの考え、それからアイデアもありますので、それは公開しないという前提のもとでいただいておりますので、今後もそのこ

とについては公開という予定はございません。

ただ、川崎委員が言われましたように、サウンディングの中でこんな意見がありましたよという出し方ではなく、意見の進展具合の中で、市の方から提案ということでサウンディングから出た意見を皆さん方にお示しをするということはあると思いますので、そういうことで今後、情報提供と議論をしていただきたいなと思っております。

●有馬座長

わかりました。そうすると、サウンディング調査は元々公開しないとなっているから、それとは別に、川崎委員が何か提案する・したいことがあれば、委員会の中でお示しいただいてもいいという理解ですか。サウンディングの提出物は公開しないとなった条件の中で提出いただいているので、それはそれで出さないけれども、川崎委員が別途何か意見したいときにその資料を使って、この委員会で発言してもいいということですか。

●事務局

はい。皆さん方から自由に御意見をいただく場合になっておりますので、その御意見を補足する資料ということで、これを示したいということであれば、それは全然構いません。

●有馬座長

川崎委員、いかがですか。

●川崎委員

参考資料として次回の会議にお持ちできればと思います。サウンディングの要綱にそういうふうにあったからということにはわかりましたけれども、今後、いろんなアイデアが出てくると思う。それをできるだけ、フィルターをかけずに、できる限りここに出していただければいいかなと。そうしないとわからない。どういった意見が本当の意見かというのが。市民のための公園づくりということですので、そこはしっかり出していただければいいなと思っております。

●事務局

今回サウンディング型市場調査をするに当たりまして、これもよそのところも同じですけど、情報管理というのをして民間事業者の意欲を確認するということですので、川崎委員が今言われました情報管理っていいですか、そういうことをさせていただきましたけど、当然議論につきましては公の場でやりますし、御手元にお配りしております第1回の議事録もそうですけど、全部公開としておりますので、議論は今後も公正・公平に議論していただきたいし、情報については公開をさせていただきたいと思っております。隠し事等は当然なくやっていきたいと思っておりますのでお願いします。

●有馬座長

どうもありがとうございます。よろしいですかこの件は。

会議の回数が少ないので、何かこういろいろと資料等をこの委員のメンバーの方に見ていただきたいというものがあれば、例えば御提案ですけど、いろんな皆様方の御提案の資料があれば、事務局に提出してもらって、それをメール等で委員の皆さんに共有するというこ

とをやっていたらどうかと思うんですけど、事務局やれそうですか。

●事務局

はい。大丈夫です。

●有馬座長

よろしくお願いします。時間も限られていますので、別の観点で質問・御意見をお受けしたいと思うのですが、いかがでしょうか。サウンディングの結果で、いろんなキーワードがあったと思うけれど。

●音成委員

私が思ったのは「市が実施する公園整備への提案」という3ページ目のところ、「体験型の公園になれば滞在時間が長くなり、飲食店にもプラスになる」というのがすごくいいなと思いました。やっぱりバスケットか佐賀バルーンズがあったりするのでそこのリンクも持たせられるし、ARKSなんかはボール遊びが出来ない。そこはある程度囲われたような空間があってそこでバスケットができるとかいうふうにすると、若者たちが必然的に集まってくるような空間になるなと思いました。

一方で、イベントができるスペースというのは、ARKSがあって、目の前にはころぎの森もあって、奥には県立博物館・美術館のところもあるので、これ以上必要かというのがすごく思って、ある程度、お互い被りあわないようなコンテンツというか、そういう空間を持ったほうがおもしろく、人が来やすいかなと。結局佐賀市の人口をターゲットにしているので、すごくパイが狭いですよね。この狭いパイをみんなで分け合うようなこともあまり意味がないので、全然違ったものをそれぞれ持っていたほうが良いかなと思う。もうイベントスペースはこれ以上いらない。さっき私が言った、歩くということもちょっと若干かぶってくるのですが、アリーナはキラーコンテンツがあると思う。それくらいのキラーコンテンツをここに持ってこない、みんなわざわざバスとか歩いて来ないと思うので、本当にそこまでやらせる覚悟があるのかどうかというのを私は言っていて、なので、ある意味ここに来て、駐車場で来てこの辺りを回遊するでも十分回遊になると思うので、画一的に歩かせるということではなく、その辺はシュチュエーションにマッチした歩き方を考えていけばいいのかなと感じています。

●有馬座長

はい、御意見ありがとうございます。

イベントスペースはたくさんありすぎているからという御意見でしたけれども、あるいはあってもいいけどしっかり役割分担みたいなものがちゃんとあるべきで、このさっきのサウンディングの中にもこのエリアの価値とか、地域のブランド的なものとか、性格とかそういうものをしっかり決めたほうがいいっていうような何となく私もこのメモを見て感じました。ほかにもいかがですか。御意見・質問ないでしょうか。

私からも質問いいですか。2ページ目の「事業化の課題や条件は」というところで、「継続的な集客が見込めるような核店舗、目玉となるような店舗があると良い」というような

ちょっと抽象的な事業者さんの御意見ですけど、核店舗というのはどういっしょのをイメージされているのか、その辺りのお話しは聞けましたか。

●事務局

ここでいただいたご意見というか事業者さんは、例えばですけどミシュランのお店とか、スタートダッシュが大事だと。そこはあくまでも見方の御意見ですので、出店を考えられるような事業者さんに御意見をお伺いしていますので、そういったスタートダッシュが大事で、みんなが知っている佐賀の中で有名なところとか、ミシュランとか、ナショナルチェーンとか。そういう最初オープンするとなったときに皆さんが「ここ行ってみよう」と思っような、そういう核店舗があるとほかの出店にも繋がるのではないかという御意見がありました。

●有馬座長

飲食店ですか。

●事務局

そうですね。はい、飲食店。

●有馬座長

集客性がある飲食店、ネームバリューがあるものをここに持って来るとかなり集客効果があるのではないか。

●事務局

そうですね。そういうところが出ると、ほかの出店につながっていくという一戸決まると、ほかの店舗も自分たちも出店してみようかというふうにつながるのではないかという御意見でした。

●音成委員

質問ですけど、運営の仕方としては市が土地を貸し出して何年契約とかで回していくのですか。

●事務局

この土地を佐賀市は一切持っておりませんで、鍋島報効会さんと神社さんと佐賀県の土地になります。緑にする部分、緑化する部分というのは佐賀市がお借りして、佐賀市が整備したいと思っております。イメージ図にもお示ししておりますとおり、やっぱり緑だけではということで、賑わいの施設も幾つかつくれたらなというふうにして思っております、それはその民間開発が出来たらなというふうにして思っております。

●音成委員

何でこの質問したかっていうと、やっぱり飲食店って3年ぐらいでの周期で回されていくので、やっぱり特にすごいブーム性とかそういうものを持ったものって必ずブームも落ちるので、集客を狙ってキラー店舗をやった場合、3年後にはやっぱりまた新しいものとか、遅くとも3年後ぐらい、そういうふうな周期で回していくようなことを最初から考えていかないと、何か難しいと思っました。

ポケモンセンターくらい、福岡にもポケモンセンターがあったり、東京ステーションにもありますけど、長きに渡って集客力がある。そのくらいのキラコンテンツがあるとそれこそバスで来ますよ。

さっきから言っているそのくらいの覚悟があるかどうかと。

●有馬座長

一応これ事業者さんのヒアリング結果ということで、これに関しておかしいとかここで言うのもあれですけど、自由にこれに関する感想なり御意見なりお聞かせ願えたらと思います。他の委員の皆さまいかがですか。

●谷委員

JTBの谷でございます。サウンディング調査、大変興味深く拝見いたしました。

3 ページ目の上の段の○3 つ目の体験型ということでスポーツの記載がされております。これまで前回の会でもそうだったかと思うけれども、歴史とか文化にターゲットを絞った御議論が多い中で、サウンディングの提案の中からこのスポーツというところに注目されたところは面白いかなと思いました。先ほど周辺の地域との競合とかあってありましたけれども、もしかしたらまさにその次の「その他」の最初のところ書いてあるとおりの「家族連れ」と「スポーツ」で考えると、ちょっとライトなスポーツというところは、もしかしたら新しい切り口で面白いんじゃないかなと思ったんですけども、ここの部分、御提案者の方の想いとかも含めて、もし今お分かりでしたら教えていただければありがたいと思います。

●川崎委員

提案したのはうちなので、私が説明したほうが早い。

あえてこれは私たちもいろんな議論の中で、学生さんからもあった意見で、私はどっちかという歴史的な風致のことをしっかり考えて、入れるのはどうかなというところも実はあったけれども、面白いから提案だから言っているじゃないということでこうなりました。

私たちカヌーとかやっていますけれど、公園に来る目的というのがやっぱり歩くだけではどこを歩いてもいいわけで、そこにしかないものがないと来ない。何かというと、世界的にいろんなところを参照してみるとやっぱりスポーツがちょっと入っているところが多い。人が賑わうところ、セントラルパークとか。この中でスケボーとかBMXとかバスケとか、どちらかという今まで行政がちょっと、イメージが悪いと思われがちなところが今どんどん変わってきていますよね。オリンピックになったりとか、マナーもしっかり、安全にできるようなシステムができたりとか。そういったものも賑わいにも逆につながるので、公園の全体ではなくて一部にそれを入れて、文化っていう大きなくくりで言っても、これからまた文化をつくっていく一つのコンテンツ。昔そこでボードがあったよね、とか、そういうイメージ皆さんあったりするけれど、それも一つの文化を使ったスポーツ。この辺りを歩いたり、散歩したり、自転車乗ったりという人が多いので、場所的にはここが1番良いのではないかなというところで一つ入れてみたところと、あとはこの辺りがよく浸水しますので、遊水機能をお濠のほうで一生懸命確保しようとされていますけれども、その一つとして低床公園。

低く芝生のところをして大雨のときはまちを助ける一つになるし、晴れたときは低床公園でボールとかで遊んでも谷状に低くなっていますのでボールとか道路に行かないとか、視界、景観的にもそんなに阻害しないとかいろんなことを考えて入れてみたところでした。

●有馬座長

どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。ちょっと時間が余りないので、もともとの手元のスケジュールから見ると。ほかの観点で何か質問、御意見ございませんか。ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。佐嘉神社の眞崎委員いかがですか、土地の所有者として。

●眞崎委員

サウンディングの実際のときも出席させていただきましたけれども、皆さま方確かに川崎さんもそうですけれども画期的な、私どもから言うとそういうこともあるんだなという、非常に勉強になったというのありました。それでこの間、つい最近日峯さんのお祭りがございました。前も申しましたけども、やはり少ないです。この辺にお住まいの方はたくさんおられると思うのですが、ここに歩いて来ない。それをどうやって寄せてくるかというのは、神社だけではやはりこれは無理だというのがあろうかと思ひますし、この公園がどういうふうになるかによって、私どもの御宮のほうも昔の賑わい、小さいころの記憶からいうと非常にすごい賑やかだった記憶がありますので、その中であの賑わいがまた取り戻せればというふうに思っております。その中で昔ながらのそのままではやはり無理だというのは分かっておりますので、今出ていますこの案も、なるほどなるほど、というのが非常に参考になりました。私ども職員としましては思ったところでございます。

今出ている中で見ますと、音成委員さんもおっしゃいましたけれど、車はどうしても避けては通れない点があろうかと思ひます。先ほどのお祭りにしましても歩いてくる人はほぼいないと思う。そのことを考えますと、歩いていただくのは結構なことだと思ひます。私どもも自転車で回れる範囲というのが昔は多かった。結構この辺りはいろんなものがありましたので、歩くのはもちろん良いと思うのですが、なかなか今の状況を見ますと、なかなかこの歩くだけの集客は難しいのではないかという感じはいたします。●有馬座長

ありがとうございます。

●富吉委員

皆さんの意見を聞いていて一番はっと思つたのが、この中で一番違和感とおもしろさが同時に来たのが体験型なんですよね。僕が考えるのと全く違うけれど、こうなるとこれからのこのスペースの姿が全く変わって、おもしろい賑わいが出来てくると思つた。最初はここに、森みたいな中に素敵なレストランとかあると、特別な場所として歴史も感じながらと思つたけれどそればかりではない、スケボーとかバスケとか、あそこおもしろいよと若者たちがドッと来て、いつも何かわいわいガヤガヤやっているみたいなことというのは、一つの視点に入れておかないといけないのかなと思つた。

森と言つたのは、佐賀県が歩く生活スタイルに変えるとなると、森の中に散歩して、そこ

にベンチがあったらそこに座ってお茶したり食べたりという空間が佐賀のど真ん中にあるというのは良いなど。パリ万博の跡地が、何にしようかと言ったときに森にしようと言ったのがあのブローニュの森らしいから、スケールは違うけれどもそういったものがあったら良いなどと思ったけれど、このスケールからすると音成さんが言ったように、これはイベントとは違う。それがここにあるとなると、ある意味では年代を超えてさっき言われたように賑わいが別の意味で令和時代ではないけれど、もっと先の賑わいがあるかもわからないと思った。僕らが子どもの頃には日峯さんのお祭りであれだけサーカスがいたり、それと違ったあれがこのスペースに出てくると、その違った姿を僕は思いもしなかった。BMX というのは確かにテレビとかで若者がやったりしているのを見ると、それがここというのは他にはないところではないかなと。川崎さんが言われたように行政とかがちょっと待ったをかけるようなところを取ってここにつくったらというのも考えても良いかなと思いました。

●有馬座長

どうもありがとうございました。報告事項でもう結構延びてしまって時間が延び延びになってしまいうすですけど、次第をちょっと見てほしいのですが、議事 3 (2) で課題ごとにご意見をいただくということで、ここでもう一度再開しましょうということで取り合えず先に進めさせてください、時間がありますから。事務局、中休みで 10 分休みをとるようになっていましたけど、無くていいですよ。

3. 議事 議事 1 課題の整理 (1) アンケート結果の確認について御説明をお願いいたします。

●事務局

それではアンケート結果について御説明させていただきます。資料はまた、資料 1. A4 の横置き資料に戻ります。資料 1 の 7 ページを御覧ください。

アンケート結果の確認ということで、基本構想策定会議であったり、それ以外にもいろんな多くの方から意見を聴取するために対面でのアンケート実施を行いました。今回掲載しておりますのは、ひなまつり期間中の最後の週末、3 月 16 日の土曜日と、ひなまつりの最終日である 20 日の水曜日祝日に徴古館前で聞き取りのアンケートを実施いたしました。アンケート用紙のほうは、資料 4 でもつけておりますのでまた後ほど御覧いただければと思います。

回答数ですけれども、こちらが 2 日間で 199 件聞き取りを行いました。両日とも朝 10 時から夕方 4 時まで実施をしております。結果を説明する前にお伝えしておきたいのは、この 2 日間というのは徴古館のひな祭りの展示を見学した後、そこから出てきた方を中心にお声かけをさせていただいておりますので、今回の結果だけを見ますと回答に偏りがあるかもしれません。このアンケート自体は今後一年程度かけて実施する予定としておりますので、最終的にはきちんとしたというか、そういった結果が出るのではというふうに考えております。

直近では、4 月 11 日、12 日、佐嘉神社さん松原神社さんの日峯さんの期間中に、松原神

社の境内でも聞き取りアンケートを実施いたしました。こちらについてはまだ集計をこれから行うため、次の機会に御紹介ができればなというふうに思っております。それではアンケートの結果が、ページ数が多岐にわたりますので、主なところを御説明させていただければと思います。

まず最初の7ページ、アンケートの回答いただいた「性別」についてですけれども、回答した方の約4分の3が女性の方となっております。年代については50代の方が28%と最も高くなっているところです。20代以下の若い世代は回答が少なくなっています。

8ページですけれどもこちら「居住地」についてです。こちらを見ますと居住地については、県外からの来訪者が多く、特に福岡県から来た方が58名というふうに突出しておりました。

9ページですけれども「一緒に来た人数」というところで、2名以上でこちらに来られている方が80%を超えております。その内訳として誰と来たかというところで、親子であったり夫婦で来たというパターンが非常に多くなっております。

10ページもこちらと一緒に来たパターン、年代別という形になっております。

11ページのほうを御覧ください。こちらは「交通手段」ですけれども、まず左側「松原公園までどうやってきましたか」というところで「自家用車」で来たという方が60%を超えています。その次に「徒歩」でこられた方という方が多く20%を占めておりました。右側のほうですけれども「利用した駐車場」というところで、徒歩の方と自動車というふうに回答した方に、回答をお願いした項目になるんですけれども、松原公園周辺の駐車場に車を停めて、徴古館のほうまで歩いてきたという方もいらっしゃるということでちょっと深掘りしたところなんですけれども「徒歩」というふうに答えた方が40%、17人いらっしゃいます。それ以外の方は近くの駐車場に停めて、歩いて徴古館のほうまで来たということがわかります。

12ページですけれども左のグラフこちらについて県内、県外の方については自動車で来た人の割合が高くなっております。右の年代別の交通手段については、50代までについては、徒歩の方で3割程度を占めているような状況になっております。

13ページ、こちらは「松原公園に来た目的」と「目的以外に松原公園以外で訪れた場所」についてお聞きいたしました。今回は徴古館のひなまつりの企画展を見に来た方を対象にアンケートをとっておりますので、左の棒グラフではほとんど「ひなまつり」、「徴古館の企画展」がほぼほぼという形になっております。右側の目的、徴古館以外で訪れた場所というところで、やはり隣にある「佐嘉神社・松原神社」に寄られた方が多く占めております。それ以外にも「まちなか」に行ってきたよという方、「本丸歴史館」に行ってきたよという方、少し離れて「柳町」まで足を延ばされている方がいるというような傾向になっております。

14ページです。こちらにつきましては「一年間でこの場所に来た回数」を聞いております。今回「初めて」来たというふうに答えた方が62%もいらっしゃいました。目的としては右にあるとおり、「ひなまつり」に来た方がほとんど、その隣の「神社参拝」という形に

なっております。

15 ページ、年代別の「松原公園の魅力」というところになります。下のコメントのとおり、松原公園の魅力は「ひなまつり」と答えた方が非常に多くなっております。これはひなまつり期間中だったということもあるかもしれませんが、それ以外にも「神社」や「徴古館」に次いで、「歴史を感じる場所」と答えた方が多かったり、あと「松原川」や「まちなかのオアシス」という回答した人が少なく、憩いの場としての認識はまだ余りないかなというような印象でございます。「日峯さん」や「イベント」と回答した人は少なくなっております。

16 ページ、こちらは「来場頻度別の松原公園の魅力」です。初めて来た人と、複数回来た人で松原公園の魅力はどう違うのかというところになるんですけども、初めて来た方というのは、「ひなまつり」が魅力的というふうに回答しておりますけれども、複数回来たことがある人は、「神社」や「松原川」に魅力を感じている割合が増えています。「佐嘉神社・松原神社」というところは16%から21%、「松原川」と答えた方は4%から11%というふうになっております。

17 ページですけれども、こちらは「松原公園に行きたくなるために必要なもの」を緑色で、そして「公園を人にお勧めするなら必要なもの」というところをオレンジ色で示しておりますけれども、「飲食・カフェ」、「木陰・ベンチ・花壇」があると、行きたくなるというふうに回答した人が非常に多くなっております。行きたくなる場所とお勧めしたくなる場所の回答は、おおむね一致しておりますけれども、お勧めしたくなる場所では「広場」、「イベントの充実」、「歴史学習」、「物販」と答えた人が多くなるという、傾向が少し異なっていることがわかります。

18 ページ、19 ページは今のものを年代別に示したものでこちら飛ばして、最後の20ページのほうですけれども、こちらは来場頻度ごとに必要なものを分析した結果となります。上のほう、行きたくなるために必要なものというところでは、初めて来た方は、「飲食・カフェ」、「木陰」、「イベント」などを求める方が比較的多くなっていて、複数回来ている人は、飲食に次いで、木陰や広場を求める人が比較的多くなっております。一方でその下の二つ、人にお勧めする場合ですけれども、初めて来た方は、「飲食・カフェ」、「木陰」の割合が少し減って、「歴史学習の場」であったり「物販」と答えた人が増えたというような結果になっているところでございます。

ちょっと足早になりましたけれども、今回のアンケート結果については以上になります。

●有馬座長

どうもありがとうございました。アンケートの結果の御説明でしたけれど何か質問ございますか。

これについてはよろしいですかね。

どうもありがとうございました。予定ではこの後に10分休憩するようになっていたのですが、委員の皆さん、色々発言したいと思うから進めさせていただいて良いですね。

続いて議事 1 (2) 課題についての意見交換 (項目ごと) というふうになっております。これについてはまず最初に説明をいただけるんですか。

●オオバ

私どもから説明差し上げたいと思います。説明としましては、資料の 21、22 になりますが、その前に申し上げございませんが 24 ページを御覧いただけますでしょうか。今後の進め方といいますか、議論についてですけれども、今回が 4 月の真ん中についております青丸のところは第 2 回の策定会議としまして、これからどういうふうと考えていこうかというお話であったり、課題をもう一度再確認したり、今後どういうふうな議論をしていくか、既に 1 番最初のところでお話を色々いただいておりますけれども、そういったところを確認した上で、5 月 6 月にワークショップをやっていきながら、3 回目で方針の設定をやっていきつつ、第 4 回目として基本構想の案を策定していくというような流れとなっております。冒頭で座長の有馬先生がお話しいただきましたとおりに結構タイトといいますか、色々やっていく必要がございますので、全体の流れをちょっと御認識いただいた上で、改めまして 21 ページを御覧いただければと思います。

21、22 ページに課題についての意見交換としまして、第 1 回の会議での御意見であったり、もしくは先ほど御説明しましたアンケート結果を踏まえまして、こういったところを改めて御議論いただいたらどうだろうかということで整理をしてみました。それぞれ項目ごとに御説明した後に意見交換をしていただくというような流れとなりますので、よろしく願いいたします。

一つ目ですけれども、コンセプトの深掘りをしていく必要がある。将来像を今までの本会議であったりとかそういったところで御議論いただいてつくっているところですが、それをもう少しどんどん具体化していくという段階に入ってきておりますので、整備コンセプトを再確認した上で、どういうふうな場所にしていくべきか。先ほどのサウンディングの結果の中での御議論等もございましたけれども、そこについてまた御意見の交換をいただければと思っております。

今までの御議論の中では、やはり賑わいであったり歴史性、そういったものを踏まえつつ関係のデザインが必要だろうというお話であったり、未来へとつながる空間にすべきであろうという御意見をいただいております。

一方でアンケートの中でも歴史を感じる場所として、そういった魅力を感じている人が多いという現状ございますので、そういったことを踏まえまして、整備コンセプトの再確認を改めて御議論いただければと思います。以上でございます。

●有馬座長

どうもありがとうございます。この資料の整備コンセプトの深掘りで、21 ページにブルーの帯のところ「整備コンセプトの再確認」それから「ワークショップ開催を踏まえた、メインターゲットの考え方」次のページ 22 ページで、「周囲との関係性や、回遊性創出の考え方」次が「松原公園に必要な機能と、その配置やデザインの考え方」この四つが大事なポ

イントだということで整理したということですね。

●オオバ

おっしゃるとおりです。

●有馬座長

ここではまた第 1 回を振り返って関係するのが多いので、改めて内容についてここに説明するわけではない。そうしましたら、これらの整備コンセプトで重要なキーワードをここに挙げていただいておりますけれども、今日のこの第 2 回の審議の 1 番はここで、ここで皆様方にいろいろ意見をいただいて、交換して、課題について掘り下げていきたいというふうには思っています。最初の御説明で 24 ページ今後のスケジュールを御説明いただきましたけど、今日の段階で第 2 回「課題設定」となっておりますけれども、課題について意見交換をしている問題が何かとか、この場所の特徴はどうであるとか、いろいろ現状を認識して、次の第 3 回のこの委員会ではもう方針を設定しないといけないとなっております。その間にワークショップも 2 回ありますけれど、そういう中で今日のこの第 2 回はこの課題についてしっかり掘り下げて意見交換しますということになっておりますので、ここを皆様方からこのキーワードを見ながら御意見いただけたらと思うんですが、せっかくですからどうですかね。これ、20 分くらいしかなかったですかね。それなりにまだ、せっかくですから全員発言いただきたいなと思って。

●音成委員

今の整備コンセプトをもう一度みんなで一緒に見ながら発言したほうが良くないですか。

●有馬委員

そうですね。オオバさん、もう少し整備コンセプトを。

●オオバ

失礼いたしました。資料 1 の 3 ページ目に整備コンセプトがございます。大きな整備コンセプトといたしますか、松原公園周辺の将来像として懇話会でまとめたところがございますけれども、「佐賀鍋島の伝統と、文化が息づく歴史体感エリア～みんなで創り、未来へ紡ぐ“松原”～」という大きな将来像の中で、第 2 期の整備のコンセプトとしましては、「憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所として整備し、核となる松原・佐嘉神社・徴古館へと誘う」「まちなかからの動線や徴古館・神社との自由な往来を意識した整備」をしていく、そういったことが、第 2 期整備のコンセプトとなっております。

こういった中でももちろん、憩いの緑であったり、水辺といった自然のいいところ、もともとこの場所にある歴史性、あとは周辺のまちなか、まちなかの動線、こういったキーワードについてこれまでの御議論で出てきているところがございますけれども、この整備のコンセプトを具体化していく、先ほどのサウンディング調査の結果の中でもどういうふうな形で賑わいを生んでいくのか、そういった冒頭での御議論もあったかと思えます。そういった観点を踏まえて、今後どういうことを検討すべきであると言ったことであったり、こういうふうな方向性で整備をやっていってはどうか、そういうふうな御意見も踏まえてちょう

だいできればというふうに考えております。

●有馬座長

もう時間をかけてしまいますから次の二つ目の「ワークショップ開催を踏まえたメインターゲットの考え方」についても、もう少しないですか。

●オオバ

「ワークショップ開催を踏まえたメインターゲットの考え方」という項目でございますけれども、アンケートのサンプルとしましてはやはり 40 代以上の方が非常に多かったところで、若者の意見が少ないというそういったところも踏まえまして、より多様な御意見をいただくために、また、今後この場所をどういった方々のための場所にしていくべきなのかといった議論を深掘りしていくために、ワークショップ開催を先ほどスケジュールのところでお話しさせていただきましたがやっていく予定でございます。このワークショップの内容については、御議論の後もう一度御説明差し上げますけれども、このワークショップのときに、こういった観点で議論すべきだとか、そういったところについてもアドバイスいただけると。

●有馬座長

続いて三つ目「周囲との関係性や回遊性創出の考え方」のその辺はいかがですか。

●オオバ

「周囲の関係性や回遊性創出の考え方」といったところが、やはりこの松原公園だけ、佐嘉神社だけを考えるわけではなくて、周りとの関係性からこの場所があるという御意見等もありますので、回遊性をどう創出するのか、先ほどの駐車場のお話もあろうかと思えますし、そういったところで回遊性を生む、周囲との関係性をどう考えていくべきか、そういったことを御意見いただければと思います。

●有馬座長

四つ目が「松原公園に必要な機能と、その配置やデザインの考え方」。

●オオバ

「松原公園に必要な機能と、その配置やデザインの考え方」については、水辺との連続性のあるデザインが必要であったり、駐車場についてであったり、あとは芝生広場だけではないデザインが必要だという御意見があったと思います。そのほか機能としては、アンケートの中では、「飲食・カフェ」であったり、「木陰・広場」といった御回答が多い中で、やはりこの場所の一番の特異性というか一番の魅力は「歴史」であるというふうにも思いますので、そういったところを踏まえまして、あと先ほどサウンディングの中での体験型も BMX であったりそういった御議論もございました。なので松原公園に目標を達成していくため、この場所が先ほどのお話でも 100 年、今後この場所が整備された後、使われていくためにどういうふうな機能が必要なのか、またデザイン等を考えていくときにどういった観点に留意すべきかそういったことについて御意見いただければと思います。

●有馬座長

どうもありがとうございました。前のほうのスクリーンに映されていますけれど、四つのキーワードを出して、今回課題について意見交換したらどうかということで御提出いただきました。

一つ目が「整備コンセプトの再確認」ということで、整備コンセプトとしてはもう既にある程度コンセプトは、前の懇話会で一応基本的な方針みたいなものを出されておりますけれども、コンセプトはすごく大事ですよ。ぜひ皆様方からいろいろとこれについて、御意見として整備コンセプトについて御意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

●椿原委員

コンセプトということで、後のキーワードとも少し被ってくるけれど、先ほどから??だ、スポーツだといったご意見があったけれど、実は佐賀県は「SSP 構想」といって「佐賀スポーツピラミッド構想」に取り組んでおります。アスリートの人材育成というのもあるけれど、スポーツを通じた地域づくりもコンセプトの中に入っておりますので、決してそういったスポーツだけのものではないと思っております。

コンセプトで歴史というのも皆さんお持ちだと思うけれど、広く未来につながるようなコンセプトを考えていかないといけないのかなと思っております。

●有馬座長

どうもありがとうございます。ちょっとすいません。座長として一つ確認したいんですけど、この絵の中でキャッチフレーズとか、キーワードが出ていますよね。キャッチフレーズは「佐賀鍋島の伝統と、文化が息づく歴史体感エリア」というこういうキーワードが、松原公園周辺における歴史と文化を生かしたまちづくり懇話会で、一応方針は立てているんですね。この策定委員会は、このキーワードはやっぱりもう変えちゃいけないという認識ですか。事務局、どうなんでしょう。

もう既に懇話会でその分は随分議論しているので、ここの軸は触れては駄目なのかどうかということをまず、すいません、1回確認した上でどうでしょうか。

●事務局

この懇話会も2年にわたって議論していただきました。いろんな分野の方、それから土地の所有者さん、鍋島報効会、神社さん、佐賀県さんにも入っていただきました。いろんな議論をする中で、やはりここは松原神社・佐嘉神社があって、そして徴古館があって、それがあくまでやっぱり核となる施設なんだよということで、いろんな私たちがその詳細な民活事業者さんの賑わいの施設だったり、公園整備をどういうふうにしていこうかという話をしたときに、いやいやそういう話じゃなくて、まず大きな方針を立てて、バックキャストの手法で検討していこうということになりました。そこで、やはりこの三つの神社・徴古館が大事で、そこにどう人を寄せていくかっていうような話を大きな枠で考えたときに、やっぱりその鍋島というキーワードが出てきました。ここは歴史をやっぱり大事にするところであるべきだと。

ただその方針は、でするので大きな方針としては変えないですけども、やはりその肉づけ

といますか、そういう部分ではいろんな御意見いただいて、公園整備としてはいろんな御意見いただいて整備していきたいと思っていますので、そこはディテールの分は柔軟に対応していきたいと思います。

●有馬座長

はい、わかりました。今のお話聞きますと、一応この伝統と文化、歴史体験エリアというのは、もうここはもうこれまでの土地の性格からしても、これはもうやっぱり揺るがないコンセプトですね。

ただしその全体のスポーツ公園にする、そういうことはないけれども、先ほどもっとアクティビティとかいろんなものがあってもいいんじゃないかということで、それは、部分的にはそういうエリアがこの対象地の中の一部にあってもいいかもしれないというぐらいの認識で良いですかね。委員の皆さんどうですか。

●音成委員

「歴史体感エリア」という言葉がすごい強いと思うんですよ。ある意味「鍋島の伝統と、文化が息づく」というのはその土地が持っている、何かこう何ていうかそういう、そういう人ってということですけど、そこから体感エリアというのはそういう体感エリアを創り出していくということなので、それをコンセプトにした以上、そういう体感できる空間とかそういうものを創っていかなければ、それがコアのコンテンツになっていく。これは本当に歴史体感エリアにセットしていくと流れが大きく変わりますよね。

●富吉委員

確かに一番最初にこれは単なる公園整備ではないですよというのは、この伝統と歴史。伝統と歴史エリアとなると、さっきのバイクとかは当てはまらない逆に思ってきたりする。一つ不思議に思っているのがアンケートでも課題についての意見についても、みなさん「広場」というのが欲しいみたいなこと。この広場というのはアルクスだって広場だけれどあまり成功していないみたいな、みんなの求める広場って何だろうと思って。「広場」が欲しいと言って、必要なものに「広場」、「カフェ」とかもあるけど、複数回来ている人も「木陰」「広場」。「広場」の意味が違うのかな。それが何で違うかということ、「鍋島の伝統と歴史を感じる広場」にしないと駄目なのかな。「広場」の違いがどんな違うのか、「広場」のありようを考えないといけないのかなと思ったけど、どうなんでしょう。

●音成委員

逆にオオバさんに聞きたいんですけど、個人的にはあまりまちづくりとか知見がないので、エリアづくりとか、他の自治体とかの成功事例で、さっきのみんなの求める「広場」って何だろうってすごい良いクエスチョンだと思っていて、それって結局ターゲットをどこにセットするかにもよる。ターゲットが何を求めるのか。何か解りやすい事例ってありますか。成功事例とかそういうのを知っていると、そういうものの佐賀バージョンを創ればいなというイメージがつくけど、成功事例のイメージがあまりなくて、私の中で。

●オオバ

成功事例といとなかなかぱっと出てこないのが正直なところでして、要は佐嘉神社であったりそういった歴史と、歴史性と賑わいの云々というところがどうしてもなかなかセットになりづらいついてというのが全国的にやっぱりその事例ではあると思う。

一方でそれを別の形、要は市民の方が賑わうではなくて交流人口をふやすという意味で、結果賑わっているのが例えば近くでいくと福岡の太宰府であったり、そういったところは参道も含めて、エリア全体でまちづくりを進めていく中で、結果人が増えていったというところではあると思う。そこは一つの事例ではあると思うのですが、ここの場所にそれが合うのかというと、またそれちょっと違う議論なのかなという気がしますので、ちょっとそれについては我々も改めて勉強し直すというか、事例をいろいろ収集しながら、御提供出来たりとか、そういったものについて資料を整えていきたいなというふうなことを今御意見いただいて思ったところがございます。

●音成委員

太宰府は観光地としての商材というか。

●オオバ

そうですね。太宰府で面白いが、敷地内に実は太宰府遊園地という遊園地があったり、実はその歴史のエリアの中にキラコンテンツとはちょっと違いますけれども、別のレジャーというかアクティビティが混在するような場所ではある。その中で古いまちと、新しい例えば隈研吾さんのスターバックスが近く参道にあたりとか、あとは最近でいくと、境内の中に年数限定でど忘れしてしまいましたけど建築ができたり、そういった人目を引くといえますか、そういった取り組みを継続してされているようなイメージがあります。その大元にあるのは観光をしたいからそれを整備していくのではなく、やっぱりその歴史だったりそういったものを大事にしていくということを伝えるときに、どうやって行くべきかというのを考えた結果が今の形なのかなと、私個人として思っているところです。

●有馬座長

どうもありがとうございます。太宰府さんの状況と違うかもしれませんが、私も実は太宰府を研究したことがある。昔は参道沿いにお相撲さんがやって来て土俵が組まれてそういうのを見たとか、あまり大きい声では言えないですけど、参道から道を逆方向に行くと夜のまちがあったとか。実は意外と神社とか参道というと厳粛な場所と思われがちだけど意外と違うような場所もあたりして。そういう意味では歴史・文化が息づくこのエリアということですけどいろんなものをミックスして、個人的な意見ですけど、一部にはそういう新しいアクティビティな場所とかがあっても良いのかな。個人的にはやっぱり人が楽しむ場所にする必要があるのかなという気がする。

●川崎委員

私はこの懇話会で出された歴史、文化とか歴史とか伝統とかってあるけれども、ここの場所の一本通った芯として、絶対に崩してはいけないもの。バスケとか新しいものはどんどん時代とともに変わって出てきます。大事なのはそこと脈略があるかというか、つながりがあ

るか、その歴史と。例えばそのさっきおっしゃった太宰府だと菅原の考え方、主となる考え方を現代の人がしっかりと守り繋いでいっていると、想いを繋いでいるということで、いろんなあの辺りを文化の拠点にするっていうことで、その当時の神社に国立博物館を敷地内に誘致したり、いろんな取り組みをされているわけですね。その中で、それに賛同しているんな商業が集まってきた。そこの参道の方々もその考え方をちゃんと理解した上で商売している。その地域全体がまず芯が一つあって、その想いを受け継いでいる、といったところが大事だと思っていまして、それで言うところの場所も佐賀鍋島藩の鍋島、お殿様の考え、いろいろ新しいことに新しい時代に挑戦していった方でもあられますし、単なる昔風につくるのではなくて、これからの未来にどんどん挑戦していく佐賀県人の在り方みたいな想いを私たちが受け継いでいけば、それはBMXでも何でも、しっかりと芯をちゃんと理解した上でやればつながりがあると思うので、そういったところでいけば良いのではないかなと私個人的には思っているところです。

●有馬座長

どうもありがとうございます。ほかに意見いかがでしょうか。

●小城原委員

これを見ると大きながっちりした建物というのは良くない。この中で個店がいろんな個店が出来ていくか、その丸が二つあるやつですね。そういったものではなくて、仲見世みたいに右、左を見ながら歩きながら通っていくというのが魅力がある。食べるにしても、ここに〇〇屋、〇〇屋というような感じのほうが。

●有馬座長

大きい施設ではなくて小さいお店が欲しい。

●小城原委員

そうです。体育館みたいなものに入ったような、今書くところにそういう建物が建っていますけど、そこにいろいろ並べてグルッと回って帰ってくる状態ですけど、楽しみがない。

松原川に魅力があると。我々子どもの頃には深くてあれですけど、今は浅くてあれですから、そこに入れるようにすれば良い、裸足で。せつかく思い出がありますので??。我々のときはボートが浮かんでいてボートで遊んでいた。そういう複合的に、今ここだけいろいろ??があった中でひなまつりとか〇〇があったとかで松原の公園があるという感じ。複合的、総合的に考えていかなと、ここだけで「お客さん来てください」というのは非常に難しいと思う。

エスプラッツまでの道路左右に飲食店がたくさんある。ここに250世帯あるけれど、そのうちの3/4は出店者。住んでいる人ではなく出店者。今ほとんどが夜を使ってやっている。昼間はちょっと定食をやっているところもあるけれど、賑わいが出てくるとそういうところも昼間も開けようとなってくると思う。そういうふうに考えていただければ、ここが魅力ある一つの空間。ここに書いてあるように「木陰」とか「広場」が欲しいと書いてあるが、そういう人たちにマッチしていける。ドンとつくと、撤去できなくなる。昔、松原マーケ

ットが 100 店舗以上あったけれど、これは生活のための道路。それに匹敵するというのではなくて、現代風のそういう飲食を配置していけば。やっぱり回遊するというのが一番良い。

●有馬座長

ありがとうございます。御意見いただいたのは、「松原公園に必要な機能と、配置やデザインの考え方」に関係するキーワードかなと思ったんですけど、大きい施設をどんとつくるのではなく、個割の店舗、飲食店が並ぶようなそういうものが松原神社・佐嘉神社の隣にあったほうがいいんじゃないかという、そういう施設の在り方と理解していいですか。

四つ目の「必要な機能と配置やデザイン」デザインに関係する施設のボリューム感みたいな話がありましたけど。

●富田委員

今、小城原委員のお話を伺ってこのいろんな統一的な機能を持った建物ではなくて、いろんな楽しみ方があってカラーが違うものがあるって、より魅力で？と感じました。

そういった中に神社と徴古館という公園の 2 つの施設をコンセプトでそこに誘うという言葉で載せていただいていますけれど、現状確かに近い距離ではありますし、今回ひなまつりでとったアンケートでもありましたように、ひなまつりに来た人対象でアンケートをとった結果、もう 1 か所「目的以外でどこにいかれましたか」の結果が「神社」の声が多かった。

既に現状でも近さと歴史という近親性もあって両施設を訪れる方が多いと思うけれど、逆のアンケートも松原神社のほうでとられて、今整理中ということでしたけれど、神社に来た方が今回、徴古館に来た人が神社に行った割合より多いかどうかということと必ずしもそうではないような気もしております。徴古館と神社の間をどう繋げれば良いのかということところが気になっていますので、必要なデザイン、配置の考え方のところが気になっているわけですけれども、そこにいろんな飲食・カフェそういった機能もそうですし、徴古館というのは神社ほどの開放性がどうしても入館料を払って入るような施設ですので、そこまでないと思います。

徴古館の展示室という機能を外に出してそれを新しい施設の中に取り込んでいくような。例えば今回、今年は辰年というところでお正月に神社参拝の方に観ていただけたらということで、収蔵庫の中に江戸時代の小さな龍の置物があるけれども、それを神社記念館さんのご厚意で場所をお借りさせていただいて、徴古館から出張展示をさせていただいたけれど、こういったものを新しく出来る施設の中に展示室的な要素も入れて、そこが徴古館と神社の間に位置して、そこでお互いを繋いでいくようなそんな機能を新しい施設に持たせることが出来れば、より両方の往来というのは気軽に出来るのかなと思いました。

●有馬座長

どうもありがとうございます。今のお話はどうですかね。東西の回遊軸に近いような話ですかね、徴古館と佐嘉神社をどう結びつけていくか、今はあまりやっぱり往来はないんですかね。

●富田委員

徴古館に来た方で佐嘉神社に行く方は多いと思うけれど、双方向で同じぐらいの割合になるか。

●有馬座長

前回もお話出しましたが、三つ、松原神社・佐嘉神社・徴古館があるけども、どう歩いて良いのか東西軸がよくわからないっていうようなこともある。一応歩く整備はされていますけれど、何か明確な軸線を形成しているようにも思えなくて、それではなかなか巡ることが難しいのかなという気はします。

●音成委員

昔の氏神様という、氏子と氏神という考え方が地域に根付いていたと思うけれど、今はやっぱりその考え方が若い世代に無くなってきていると思うし、佐嘉神社に関しては、氏子が県民全員という、すごくある意味曖昧な形になっているからこそ、直接このエリアの人が氏子ですというのがなかったりするもので、そういうのも相まってやっぱり時代的にも佐嘉神社の特性的にも、みんなの市民の意識が向きにくい状況っていうのは事実やっぱりあると思う。

例えば、うちは子どもが今回入学式を経て、お友達を誘って、近くの神社に祈願に行こうよ。やっぱりそこは「ん？何で？何で行かなきゃいけないの？」というふうに周りを誘っても言われるし、意識がやっぱり落ちてきているので、そこをある意味、この空間が松原公園が新しくなることは、少しちょっと佐嘉神社が身近になってくれる第一歩になるような、そのぐらいのこの2期整備は役割になるならば十分なんじゃないかな。

●有馬座長

どうもありがとうございます。素晴らしいご意見、2番目のキーワード、ターゲットをどうするかに関わるかなと。2番目が「メインターゲットの考え方」この場所を誰が使うのか、どういう世代が使うのかということで、今の発言ちょっと私なりに解釈すれば、若い人から使ってもらえるとこの場所に対して愛着もずっと続かないし、やっぱり若い人なんかそういう子どもたちも氏子とかそういうのがなくなった中で、若い人たちも訪れて「この場所、良い場所だよ」って体感してもらおう場所になっていくって大事かなという話を私は勝手に感じました。

●音成委員

まさに本当にそれで、それを考えたら私やっぱりこの2年間かけてつくってきたところにちょっとこれっていうのもなんですけど、「歴史体感エリア」というところが、ずっとこうちょっとひっかかかっていて、ちょっと前に、佐賀県取り組みでやっていた維新博のときかに直正公の「日本で内戦やっている場合じゃないだろう。もっと世界を見て世界はもっとすごいんだぞ。未来を創っていこうよ。」というあれは鍋島藩としてのスピリットだと思うし、「佐賀の伝統と文化が息づく」そういうところでしっかり組み込んで、それを組み込んだうえで「歴史体感エリア」ではなくて「未来創造エリア」ぐらいに持って行って、その中の佐賀はSSP構想とかあるから、スポーツエリアはここだ、アカデミックエリアはここだ、

みたい。そこでは例えば、鍋島様の過去に行った投げかけ「未来創っていこう」というそういうものが理解できる場所があったり、そういう感じで作っていくと文化と歴史が引き継ぎながら未来を創る。ターゲットは必然的に若い人たちになって、子供たちもそうだし。これから未来を創っていく人たちが集まって楽しめるような場所。その人たちが来れるように、その人たちが楽しむものを作っていくといけないから、バスケとか。

●有馬座長

どうもありがとうございます。今の貴重な発言、どうもありがとうございます。整備コンセプトにかなり関わるキーワードかなと。ここでは「伝統と、文化が息づく歴史体感エリア」というキーワードが出てきていますけれど、これだけでは物足りなくて「未来創造」とかそういうキーワードも入った、そういう意味では過去を単に振り返るだけじゃなくて若い人も来て、何か楽しくて、というエリアにしていったらどうかというようなコンセプトづくりが必要じゃないかっていうことですがいかがですか。

●大野委員

懇話会で2年間??もらった「佐賀鍋島」というのが一番大事なところだったんじゃないかな、歴史にも結び付くことだと思うし、「鍋島」というキーワードからいうとやっぱり世界を見ていた、未来を見ていたというものも大事なコンセプトになってくるだろうなあというところで、核となる施設も鍋島ゆかりの核施設ばかりということで、そういうところは大事にした、やっぱり若い人も高齢の方も含めて、やはり世界を見る、未来を見るというのが、そうすると、じゃあどういう機能を持っていこうかなっていうのも間口の狭いものではなくて広いものを機能として入れていこうよというふうなことも議論が可能なんじゃないかな。

そうすると皆さんが親んでもらえるような施設づくりというのはできるんじゃないかなと。迷子にならないようにしないと、というのがありますし、太宰府のお話も出ましたけどやっぱり、太宰府神社というところでもありますけど、太宰府神社もどンドン少しずつ仕掛けを変え、周りも変化をしていきながらいうことなので、100年続かないといけないというのがありますけど、その中でやっぱり変化を受け入れるよというような施設・機能というのも考えていっていいんじゃないかなあと思う。

●有馬座長

どうもありがとうございます。変化も受入れて、革新、新しい未来に向けて創造していくような場所づくりしていきたいと。単に開放的に文化や歴史というところに目を向けるのではなくて、「未来」というキーワードが欲しいなというところですね。

それからさっきの21ページの下側のメインターゲットですけれど、若い人たちにもしっかり目を向けていく必要があるんじゃないかというそういうキーワードをいただきました。次のページ「周辺との関係性」で計画的な課題になってくるかと思うけど、やっぱり三つの施設が並んでいて、何かつながりを上手くつくっていくといけないということで、これはもう少し後の計画的な話なので、そういうニーズがあるっていうことでとどめていいで

すかね。

最後の「施設の機能と、配置やデザインの考え方」。あまり大きいボリュームがあるようなものではなくて、やっぱりまちなかですから何か事業者さんがお店とか飲食店が集積して行って、よその事例でいくと太宰府の参道沿いみたいな形でお店が並んでいるというようなところの作り方というのがいいんじゃないかというお話をいただきましたけれど、今そういうところですがほかに発言したいということがございますか。

●谷委員

メインターゲットのところで若い世代ということですけど、若い世代って何歳から何歳とか、どういう環境にある人かということもメインとしてきちんと定めたほうがいいんじゃないのかな。五十歳の人から言ったら三十歳でも若いですし、三十歳で子育て世代の方もいらっしゃる三十代でアクティブにお仕事を頑張っている方もいらっしゃると思うので、あくまでもメインはということでは若いというくりではなくて、もう少しこう具体的にざっくりした中で、それからこの周辺がサブターゲットみたいな感じで広がっていくんじゃないかなと考えております。

●有馬座長

いかがでしょう。メインターゲットをもう少しシビアにしっかり考えていく必要があるんじゃないかということですが、皆さんのイメージはいかがですか。

●音成委員

これは何かこれ私もすごい悩みで、私は商品づくりとかそういうときに、やっぱりコアのターゲットがドンピシャにある。エリアとかまちって、もう少し広くくりだから、何かどこまでずっと私も谷さんが考えていたことを悩んでいて、どこまでメインターゲットをこういうときは狭めるべきなのかという。

●オオバ

釈迦に説法みたいな話になってしまうので大変恐縮なんですけども、我々が「まちを考える」とかっていうときに考えるのは一つのメインターゲットでやっぱり絞るとするのは非常に難しく、時間軸で考えるというふうに考えています。

要は時間軸を長くとったり短くとったり、という中でまずは若い方の中の「子ども」をメインターゲットにしよう。その子どもの方々が大人になっていったときにどういうふうに関心を感じてほしいとか、そういう時間軸を何かしら設定した上で、例えば松原公園は特にそうですけれど、将来100年後、200年後ずっと続いていく場所であるべきということを見ると、どこの世代に対しても何を想定していくのかということ、時間軸をもって考えていくということが、かなり個人的な考えになりますけれども重要なのではないかなというふうに考えております。

●谷委員

今のお話でいくと、少し小さく考えるとまさに子育て世代の若い人というのが、先ほどまで「若い」というくりだったのが「子育て世代の若い人」というところで、一つ絞られた

んじゃないかなと思います。それがこの会議体の中で共有できるんだっただと思います。

民間もそうですし行政の方もそうかと思うんですけども、ただこういう事業をすると
なるので何らかの結果を出さないといけないというところで、砂漠に水をまくようなこと
だったらなかなか結果出にくいと思うけれども、きちんとターゲットिंगすることによっ
て、それにしかるべき政策を打つことで、まずはその何らかの成果が出るんじゃないかなと
思いますので、今仰せの通り「若い」というところだけではなくて「子育て世代」というと
ころで絞り、キーワードを書きいただいておりますけれどもそれぐらいの絞りを入れた
ほうがいいんじゃないかなと考えております。

●有馬座長

いかがでしょう。「子育て世代がメインターゲット」という設定、いかがでしょうかとい
うことです。

●音成委員

数十年にかけてだけど、例えばイメージとしてそういう人たち、子育て世代をターゲット
とするとすれば、例えば準備しなきゃいけないのは、本当小さいときの子たちが遊具エリア
と、そこから少し大きくなってきてバスケットかやりだすエリア、サッカー場とかっていうふ
うな時間軸である程度カバーされていることが大切っていうことになる。

●オオバ

そこも非常に難しい考えだと思うんですけども、全てのものを一つの場所に備える必
要はないと思うんですね、エリアでやっぱり考えていけば良いのかなと個人的には思いま
す。

例えば我々はよく言ったりしますけど、あれも欲しい、これも欲しい、これも入れよう
となると幕の内弁当になってしまって、結局これは何弁当なんだ。そんなことになってしまう
と

例えば「から揚げ弁当を食べたいっていうものよりも幕の内弁当を食べたい」、好きな方が
いらっしゃったら大変申し訳ございませんが、なかなかならないのではないかなと個人的
に思っております、何かそういった意味合いで、エリアで考えていくっていう、全てをこ
こに詰め込むではなくてもいいんじゃないかなという気はしております。

●音成委員

やっぱ子育て世代と一言に言っても、その子どもが小さいとか、ある程度アクティブに自
分たちで公園に来て、遊びに来るぐらいの子どもたちのイメージなのかによっても結構違
ってきますので。

●オオバ

おっしゃるとおりだと思うんですね。ここまでの御議論の中でもあったと思うんですけ
れども、いかに目的をつくるかと思うんですね。遊びに来させるか、ここに来たらこんな
ことができるかっていうことを、いかに知っていただくかっていうのが重要だと思うの
で、フェーズとしてもまずは知っていただく段階、使いこなす段階、さらに発展していく段

階、何かいろんなフェーズがあるのかなという気はしております。

●有馬座長

座長から提案ですけど、実はこの後ワークショップ2回やるじゃないですか。その中で、ワークショップの一つのテーマでこの場所をどう使いたいかというお題を用意しているんですよ。委員の皆さんにはこの次の2回のワークショップですけど、興味があってお時間が許す方は一緒に参加していただいてオブザーバーとして、議論の様子を見ていただきながらもう少しターゲットについては、ワークショップの中でもいろいろ情報を得た上で、もし絞り込む必要があるのだったら絞り込んでいくというスタンスでいかがですか。

ここにいるのはみんな若くないですけど、ファミリー層の意見をうまく反映できるかちょっと疑問なところがあって、私も年なので子どもも育てているので。どうですか、ワークショップの中でもそういう御題があるんですよ。この場所で何したいかというのを、テーマをつける部分ありましたよね。そういうのも見た上で、もう少し絞り込むのであれば絞り込むでも良いのかなと思ったけど。もう時間も限られておりますし、あと少し今後のスケジュールとワークショップについて説明もあるので、この議論は一度これで終わりにして、また最後ちょっと時間があってどうしても発言したという方がいれば、発言していただくということでもよろしいですか。

いろいろ御意見いただきまして、コンセプトについても少しですが、未来志向的なコンセプトにしたほうが良いのではないかと、ターゲットについては家族層、ファミリー層というのを一通り大きなメインターゲットとしてどうか。周辺の考え方、関係については三つの施設を上手くつないでいくのが良いという意見をいただきましたし、最後の施設の在り方はあまり大きいものではなくて、個割に小規模なものが集積しているイメージが良いのではないかと、この意見をいただきました。よろしいですか、そういうことで。次に移りましょう。

議事2. 今後の進め方 (1) 今後のスケジュールの確認、御説明をお願いします。

●オオバ

今後の進め方としてまずは24ページのスケジュール。こちらについては先ほどお話をさせていただいたので、簡単に御説明しますけれども、これから今回も含めて会議を3回やる。2回と3回の間、5月26日、6月23日にワークショップを2回実施する予定でございます。そのワークショップの結果＝基本構想というわけではございませんので、ワークショップで広く御意見をいただきながらそれを、ここの会議の中でいろいろ揉んでいただいて、それが基本構想になっていくというような形になろうかと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いします。

その次25ページを御覧いただきますと、どのようなワークショップをやっていくのかというところを御説明差し上げたいと思います。

ワークショップの目的はやはり、公園の整備事業のことを知ってもらうという広報的な意味合いも含めております。なので、整備事業のことを知ってもらうということと、将来イ

メージ図、先ほど御覧いただいていた将来像を共有しながら、どのような場所になればいいのか、どんな機能が必要なのか、そういったことをアイデアとしていただく、といったことを目的としてさせていただきます。

それを踏まえましてワークショップのテーマは松原公園の整備について考えようという大きなテーマでございますけれども、そういったテーマでワークショップを2回開催いたします。

第1回目が「こんな場所になればいいな」第2回が「松原公園の将来像を考える」というテーマで実施をいたします。ワークショップの広報としましては、周辺の自治会さん、月間ぷらざ4月号、市報さがであったり佐賀新聞、各ラジオであったりテレビ、そういったところでワークショップの広報というものは佐賀市さん事務局のほうでさせていただいているという状況でございます。

続きましてもう1枚めくっていただきまして、26ページに第1回ワークショップの内容を載せさせていただいております。第1回のワークショップは、ここの場所、松原公園・佐嘉神社のことを御存知ない方も、参加者としていらっしゃる可能性もございますので、まずは現地調査、話題提供として、現地を約50分ほど歩きながら歴史や整備イメージについて詳しい方にお話しいただきながら巡っていただく。

そこで何となくこの場所について知っていただきながら、こんな公園になったらいいのかなということを考えつつ、そこからグループワークに入っていきます。グループワークでは、まずは魅力と課題を出し合う。ここの場所もいいところ悪いところも、悪いところとかあれですけども、改善すべき場所というものを出していく。それを踏まえつつ、ここで誰が何をしたいのか、何をさせたいのか、そういったことについて御意見いただく。ここで重要なのが、何が欲しいのかといえますか、「もの」を聞くのではなくてどんな「機能」がいるのかという視点で御意見をいただくことを考えております。

そういったステップ1、2のお話を踏まえまして、この将来像を実現するためのキーワードを三つほど挙げていただく。かなりいろんな御意見が出てくると思うので、その中での優先順位をつけていただきたいなという意味合いでこのステップ3としております。

そのような御議論を踏まえて最終的に成果を発表していただいて、16時に終わる予定という形です。開始時間は1時半を開始予定としております。

続きまして第2回。こちらは正直言いますとまだたたき台というふうに御覧いただければと思います。

第1回のワークショップの結果を踏まえて内容が変わる可能性がございますけれども、全体の流れとしては、第1回のワークショップを振り返りつつ、整備の方向性の案を確認していく。そこから活用方法を考えていただきながら、実際どこの場所にどんな機能があるのか、どういうふうな人の動線を生んでいくのか、そういったところを御議論いただいて、一つのゾーニング図、動線図がそれぞれの班ごとにでき上がってくるというイメージかなというふうに考えております。

この第2回ワークショップの結果を踏まえて皆さんに御議論いただくわけですが、ワークショップは御存知の方もいらっしゃるかと思うけれども、やはり参加者が自ら考えながらアイデアを出していただくところが重要でございますので、28ページを御覧いただきますように、全員が発言していただける場作り、そういったことについてはさせていただくということと、実際そのワークショップが、例えば私どものようなコンサルが入らせていただくことももちろんございますけれども、どうしても議論が固くなってしまいう可能性もございますので、ここについては佐賀大学の有馬先生に御協力いただきまして、ワークショップの中のキーマンといいますか取り回しといいますか、そういったところは有馬先生にお願いをしているところでございます。

最後、30ページ1番最後でございますけれども、できれば皆さんに意見をいろいろ言っていたきたいなという中で、少しでも意見が出しやすくなるようにという思いで、この赤枠で囲んでいるエリアをちょっとした模型をつくらうと思っております。現況模型と言いますけれども、今の状況の模型をつかって、それを実際に見たりしながら御議論いただけるようにということで、模型を作成いたします。

最終的にこの会議の御議論を踏まえて、最終的な基本構想図といいますか将来像が改めて見えてくると思うけれども、最終形の将来像図を構想図についても模型として作成して切り替えていく、これが将来像というような模型を作成する予定でございます。以上でございます。

●有馬座長

どうも御説明ありがとうございました。スケジュールのページをもう一度確認したいと思うけれど、この後は5月26日ワークショップ①、6月23日ワークショップ②があって、7月に第3回目の委員会があってここで方針を設定して、9月に基本構想策定ということで結構タイトなスケジュールになっていますけれども、こういう形で進めていくということです。

ワークショップですが、皆さんの御手元にもチラシがあると思います。これはもう参加申込みを今始めているという状況です。定員何人でしたっけ。

●事務局

定員自体は設けてはおりませんが40人ぐらいで想定をしまして、応募状況を見ながらちょっとそこは調整をしたいと思っています。

●有馬座長

今、どれぐらい。

●事務局

昨日時点で7名。

●有馬座長

応募の締め切りが5月9日でもう少し後。委員の皆様には可能だったらこの5月26日13時半から、それから6月23日13時半から、オブザーバーという形でもし可能だったら御

参加いただければ。参加者が少なかったら皆さんもワークショップ入ってもらいましょうかね。取りあえず皆さんの意見はこの委員会でいただくということにしているので、市民参加の場ではもう市民が主役になっていただいたほうがいいかと思うので、このワークショップの場合は皆様、基本的にはオブザーバーという形で各テーブルを回って、どんな意見が出ているかというのをぜひ時間があれば参加して聞いていただけたらと思うけれど、事務局それで良いですね。

●事務局

はい。

●有馬座長

委員の皆様、いいですか。私どうしても参加したいという方がいらっしゃるかもしれませんが、取りあえずはオブザーバーという形で、参加いただけたらと思います。

それからワークショップの中身について26ページ。ステップ1、2、3というのが主なテーマです。ワークショップの中の課題。気になったことがあるんですけど、この1日目のステップ3で、将来像を実現するためのキーワードを考えるというところですけど、意外となんかありきたりなキーワードが出てきて、これは何かプランニングに結びつくのか3番目のステップ3が気になったんですけども、工夫が必要かなと。将来に向けたキーワードを出しましょうと言ったら、歴史性とかありきたりなオーソドックスなキーワードが出て来て、なんかなかなかプランニングに結びつくのかな、というのが気になったけど、何か工夫はあるんですか。

●オオバ

工夫としましては1、2の意見をしっかり見た上で、その意見の中からどれが大事なのかっていうのを選んでいただくようなイメージかなというふうに考えております。優先順位を決めていくという意味合いで、キーワードを出していただくということを考えております。ただ、おっしゃられる意見もあろうかと思っておりますので、むしろ先ほどの御議論の中でも新しい機能といいますか、未来志向型といいますか、そういった考えの御意見を出していただくという視点で、ステップ3もテーマの出し方を切り替えるということも、考えとしてはあろうかと思っております。

●有馬座長

そうですね、歴史性とかが出てきてもそれはベーシックな当たり前のコンセプトで、それが出てきてもあれなので、未来志向としてどういうキーワードがあるかと少し縛り加えてもいいのかもしれない。

●音成委員

来る人たちはやっぱり市民の方々じゃないですか。だからもう少し緩く軽く、例えば「あなたがわくわくするような松原公園って何ですか」とか「遊びたくなるような松原公園って何ですか」とか、来たくなるような、訪れたくなるような松原公園って何ですか」という、今我々が迷っているいくつかの方向性をテーマとして挙げてみて、それぞれに具体的な話

を出してもらっていくと、自分たちも、市民がこういうことをそれぞれイメージしているんだな、こういうことだったらこの方向性有り得るかもとあって、できるのかなあと思いました。

今日も何かやっぱりこの場所の目的を何にするのかというのがあったので、目的っていくつかキーワードがあると思うから、こっちからある程度出しちゃったほうが良いのかな。一からブレストさせるよりも。というのと、2回目のときは専門用語の動線とかゾーニングとかはどっちかと言うとつくる側の話なので例えば「回遊したくなるようなアイデアって何かある」とか「回遊したくなるとしたら、どう回遊する」とか具体的にありありとイメージしてもらうことが、私たちが今後それをベースに次を考えるネタが出てくるかなと思いました。

最後が出ているのであれなんですけど、テーマのところが硬いなと思って。「松原公園の整備について考えよう」だからみんながわくわくするようなとか、そういう明るい、楽しいほうが良いかなと思いました。公募が出ている、チラシもこれで出ている。

●有馬座長

大きなテーマですね。「松原公園の整備について考えよう」ここはもう、変えられないので。

●音成委員

ワークショップに来る人たちって、頭が固い方より柔軟でちょっと精神的な思考を持った方のほうが良いじゃないですか。

●有馬座長

なるべくわくわくするような意見が出るように進行していきたいと思います。

オオバさん、特に確かに第2回目でゾーニングとか動線、その辺は余り一般市民には馴染みがないかもしれない。

●オオバ

おっしゃるとおりかと思いますので、そこのきっかけといいますか言葉の使い方も含めてちょっと気をつけて第2回のワークショップを考えていきたいと思います。

ただ場所の話の、あれが欲しい、これが欲しいっていうのは結構無限に出てくる、出せるもので、それをどこに配置するのか、それが何につながっていくのか、とか、やっぱりそういった具体的な議論もしていただきたいので、第2回のワークショップではそういった御議論をやっぱりしていただくための工夫をしたいと考えております。

●有馬座長

ほかに質問御意見。

●川崎委員

もう応募が始まっているんですけども、出来たら先ほどからのお話の中で、若い世代、子どもとか次の世代に継承していくべき方々の意見ほど大事だと思うので、出来たらこう、大学生は来てくれるだろうと思うんですが、高校生とか近くの高校、龍谷高校とか西高とある

かと思えますけど、小学校も良いかもしれません。そういったところもぜひ、地域で生まれ育った人たちに声をかけていただけませんか。そうすると、この子たちが自分たちが関わったまちづくりっていうことで、しっかりと次につながっていきますので、そこはしていただきたいと思うのと、あとこの絵が今、イメージ図があるんですけども、これを一般の方で出されると、かなりこれに引っ張られる可能性があるんじゃないかなと思うので、出来たらこの施設のところはせめて四角の箱みたいな、食べ物がこれから作られるんだっていうイメージがかなり出ちゃうので、出来たらちょっとぼかしたほうがいいかなと思いました。

●有馬座長

その辺はできるんですかね。どうですか。

●事務局

小城原委員さんからもいろいろ御意見いただきまして、あくまで整備イメージですので、しっかり補足はしていきたいと思います。

●有馬座長

見せるにしてもこれはあくまでも昨年度までの懇話会で出たイメージであって、これをそのまま実現したいということではないという説明をしっかりと、出すのであればそういう説明をしっかりとしていくということで、いいですか。

●事務局

そうさせていただきたいと思います。

●有馬座長

絵を修正するのはちょっと難しいかなと。

●事務局

それと1回目の基本構想策定会議の中で、懇話会で定めた将来像であったりとか、先ほどの御意見はいただいてありがたかったですけれども、そこをもう一度しっかり説明した上で、さらに、これは整備のイメージということで決めていると、その説明はきちっとしていきたいと思います。

●有馬座長

よろしいですか。

一了承得る

●大野委員

お子様連れは大丈夫ですか。

●事務局

大丈夫です。

●音成委員

聞いておきたいのが、地図にもある新馬場通りの位置づけって何なのかっていうのを理解しておきたい。

●有馬座長

どこの話ですか。

●音成委員

整備コンセプトにもある松原神社の向こう側の新馬場通りの位置づけ。というのも、さっき小城原さんも言われたように、仲見世的につくるというのは私も賛成だし、小さな店舗がたくさんあるのは楽しいと思う。

昔は松原神社があったので、多分その前の新馬場通りが参道だったと思うんですけど、そっちに人を流していくべきなのか。でも公園はこっち側につくるわけだから、そうすると新馬場通にもつくと、バラしちゃう？と個人的にはこの2回の会をもって思っていて、人の流れを外にばらすよりも公園の中だったり、さっきも言われたようなまちなかの方とか、エスプラッツの方面とか駅の中央大通りとか、そっちの方に流していくのが良いのかなと思って、市が考えている新馬場通りの位置づけとか、その辺を理解しておきたい。

●有馬座長

今回のプロジェクトに直接関係するわけじゃないですけど、周辺との関係を考えていくというのは大事なポイントで、新馬場通りをどう考えているのかというのは何か今言えることがあればお願いします。

●事務局

新馬場通りに関しても佐賀市としては、やっぱり柳町とかそういったところにもつながる、当然新馬場の歴史性というのも重要だと思っておりますし、柳町につながる通りとしてやっぱりしっかり考えていきたいというふうな位置づけではあります。ただ今回の松原公園の整備に関しては、当然、新馬場通りとのしわ寄せがないわけじゃないと思っているんですよね。ですので、ここもしっかり考えて見据えた上で、こちらの松原公園の整備については考えていきたいと思っています。

音成委員さんが言われたように、新馬場通りをある程度参道として整備していくということと、こちらとの何か整合性っていうのは、確かにおっしゃるとおりかなというふうに思うんですが、もともとその昔、佐嘉神社、徴古館があったときも、この松原公園辺りというのは賑わいの施設があったり、小城原委員が言われるように仲見世があったり、そういった賑わいでの回遊というのはあったかなと思います。さらに新馬場通りについても、松原神社の参道としての賑わいがあったかと思しますので、全体的に担っていくような、確かに取り合いというのはあるかと思うんですけども、ちょっとその辺りは両方大事にしていきたいと思っています。

●音成委員

当時と現状が違うのは人が住んでいたんです、昔はやっぱり。人が住んでいると当然2ヶ所くらい賑わいの場があるけれど、このエリアは人が住んでいない。外にあることを考えると、あまり無駄なお金のかけ方は、と思いました。

●有馬座長

今回の松原公園とはまたちょっと別ですけど、周辺しっかり考えていかないといけない

ということと、やっぱり市は4核構想の中で、ここが一つの核で柳町とかあの辺りも一つの核になって、そこを上手くどうつないでいくか、これは松原公園とは別の課題かもしれないですけど、大切な課題かなと思います。

話を聞いていて思ったけれど、対象をどうするかというときも、今回ファミリー層がまず基本だろうということはいこうということですけど、一方では今、テーマコミュニティとかありますからね。歴史好き、文化好きとか、そんな人たちのことを考えると、このエリアだけで収まらず柳町とか城内とかうまくそういう歴史好きのコミュニティの人だけど巡らせるかという、実は、課題としてもあるかな。

でもあまり広げると、なかなか計画が上手くプランニングまで結びつかないような気がして、ここはここでしっかり家族をターゲットしたプランニングをやっていくというのはまずは基本としてあるのかなとは思うんですけど。いろんな観点を見ていくとなんか議論????と思うんですよね。いくつか課題をきっちり整理しながら、ここでしっかり進めていく内容を詰めていきたいなと思います。

最初に川崎委員からいろいろお見せしたい資料があるんだって話がありましたけれども、もう時間がきたのであれですけど、1回市役所さんに、もしほかの委員の方も何かぜひ目を通してもらいたい資料があれば市役所さんに出していただいて、それを私たちに配っていただくということをお願い出来ますか。

●事務局

はい。

●有馬座長

すいません。やっぱり12時超えてしまいました。最後にどうしても発言したいという委員の方がいらっしゃいましたらどなたか。よろしいですか。そしたら事務局にお返ししたいと思います。

●事務局

はい、ありがとうございました。有馬座長、議事の進行ありがとうございました。

4. その他ですけど、先ほどスケジュールの中でもお話ししましたが、次回の第3回の策定会議を7月に予定をしております。このことにつきましてまた日程調整をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

それとワークショップのことなんですけど、若い人の参加ということで、大学生、有馬先生のほうから大学生のほうにもちょっとお声かけをということをお願いしております。

チラシを入れております。この右側にQRコードを読み取ると申込みのところに参りますので、委員の皆さま方から、そういう若い人とか、いろんな御意見を持っているような人に声かけをぜひお願いをして、ワークショップって今まで私も2回ほど経験したけれどなかなか集まらないんですね。待っているだけでは、積極的にお声かけをしていただきたいと考えておりますので、御協力をお願いします。

それと委員の皆さんも当日ぜひ、どういう意見が交わされるのかというのも見たいだ

きたいなと思いますので、御出席のほどお願いします。

このチラシの裏を説明したかったんですけど、佐賀のこの周辺のあるあるを載せております。

なんでここが松原って呼ばれたの？とか、それから、松原社、昔は日峯社と呼ばれていますけど、なんでここに建ったの？という、この周辺のあるあるを。これは昨年、松原の歴史展というパネル展から抜粋したものです。当日ワークショップにはこのパネルを展示したいと思っておりますので、そういうことを見ていただきながら、この松原公園の整備についてのワークショップが進めていけたらと思っております。 それでは、本日の会議はこれで終了したいと思います。